

千葉商工会議所景気動向調査

……平成27年2月期調査結果報告……

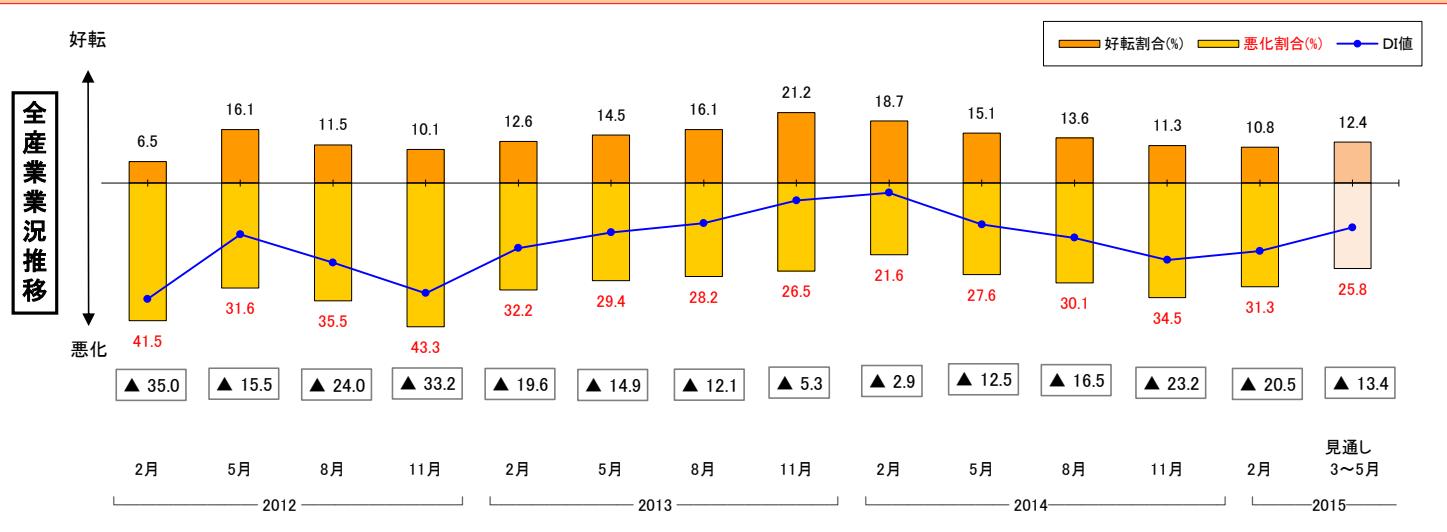
調査期間：平成27年2月12日(木)～2月23日(月)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 425社 回答率 85.0 %)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)



【全体の特徴】

(▲はマイナス)

2月の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成26年11月、以下同じ)と比較して、製造業で下降、卸売業でほぼ横ばいだったものの、他の3業種で上昇した結果、全産業合計DIは2.7ポイント上昇して▲20.5となり、4期ぶりに上昇した。また、向こう3ヶ月(3月～5月、以下同じ)の先行き見通しは、全業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より7.1ポイント上昇の▲13.4となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、全業種で下降した結果、全産業合計DIは9.0ポイント下降して▲17.1となり、4期連続で下降した。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業を除く4業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より8.6ポイント上昇の▲8.5となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、建設業でほぼ横ばい、製造業で下降したものの、他の3業種で上昇した結果、全産業合計DIは1.9ポイント上昇の▲22.2となり、4期ぶりに上昇した。また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、製造業、小売業、サービス業で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より5.3ポイント上昇の▲16.9となっている。

全体を総括すると、業況が好転と回答した企業は横ばいであったが、悪化と回答した企業が減少し、相対的にではあるが、景気感は4期ぶりに改善した。但し、仕入単価DIからは依然として単価高止まりの傾向が見られ、従業員DIは過去最高値を更新し、引き続き各業種で人手不足が発生している。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは3.0ポイント上昇して▲15.6に、売上DIは1.9ポイント下降して▲7.8に、採算DIはほぼ横ばいながら0.2ポイント下降して▲15.5となった。業況DIは5期ぶりの上昇の一方、売上DIは5期連続、採算DIは2期ぶりの下降となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DIは現状より上向くが、売上DIと採算DIは現状より下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは「宅地分譲地の増加、建築需要も増えると予想」「公共事業が引込工事・リフォーム需要を喚起して順調」等の前向きな声があがる一方、「まだまだ従業員が足りない」「人材不足もあり受注後の工事進行に影響がある」等の人手不足を訴える声も多数寄せられた。

【調査結果のポイント】 * 景気感は4期ぶりに改善。仕入単価高止まりと従業員不足傾向は依然として続く

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧いただけます。
http://www.chiba-cci.or.jp/general.php?cms_id=99

【全産業】

・製造業

前回調査と比較して、業況DIは4.8ポイント下降して▲17.6に、売上DIも15.0ポイント下降して▲17.3に、採算DIも2.4ポイント下降して▲21.4となった。業況DIは4期連続、売上DIと採算DIはともに3期連続の下降となつた。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DI、売上DI、採算DIとも現状より上向くとの見方になつてゐる。

調査回答企業からは「円安の影響で国内回帰の動きが見られ引き合い増加」「新開発の機械の効果で売上アップ」といった声がある一方、「輸入原材料の値上げが相次ぎ仕入単価が上昇して採算悪化」「販売一件あたりのボリュームが非常に小さくなつた」等厳しい状況を訴える声も複数寄せられた。

・卸売業

前回調査と比較して、業況DIはほぼ横ばいながら0.3ポイント下降して▲26.2に、売上DIも16.7ポイント下降して▲20.3となつたが、採算DIは6.0ポイント上昇して▲25.0となつた。業況DIは4期連続、売上DIは2期ぶりの下降となつたが、採算DIは4期ぶりの上昇となつた。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、売上DIは現状より上向くが、採算DIは現状より下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、円安の影響等で仕入価格は上昇傾向でも販売価格に対しては値下げを要求されるが多い模様で「仕入価格が上昇しても販売価格を上げることが難しく利益が取れない」等の声が寄せられた。中国市場の減速を指摘する声も複数あつた。

・小売業

前回調査と比較して、業況DIは8.4ポイント上昇して▲32.4に、採算DIも3.6ポイント上昇して▲36.0となつたが、売上DIは5.1ポイント下降して▲34.7となつた。業況DIは2期連続、採算DIは2期ぶりの上昇となつたが、売上DIは2期連続の下降となつた。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI、売上DI、採算DIとも上向くとの見方になつてゐる。

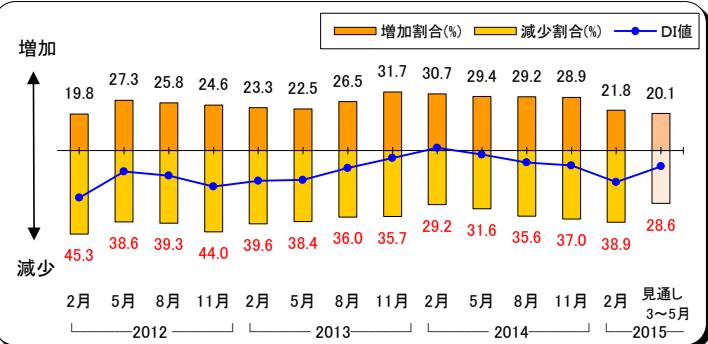
調査回答企業からは、前年同期の消費増税前駆け込み需要時期と比較して売上自体は減少しているものの「2月期のスタートは前年より上向き」「春物の動きに期待」「原油価格値下がりで売価は下がったものの採算は良化」といった声も寄せられている。一方で仕入価格上昇で厳しいと訴える声も依然としてある。

・サービス業

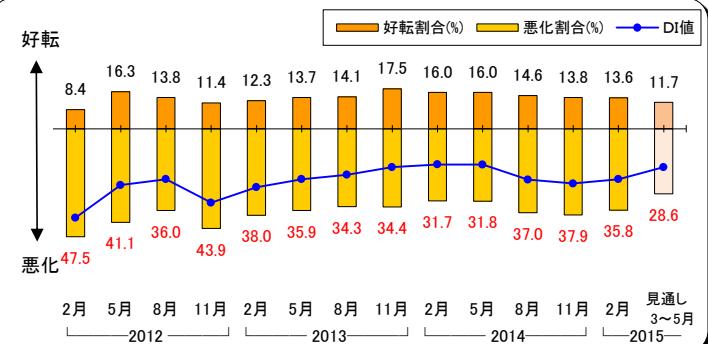
前回調査と比較して、業況DIは5.8ポイント上昇して▲13.0に、採算DIも1.4ポイント上昇して▲15.1となつたが、売上DIは8.2ポイント下降して▲8.2となつた。業況DIと採算DIは2期ぶりの上昇となつたが、売上DIは2期連続の下降となつた。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DIと採算DIは現状より上向くが、売上DIは現状より下向くとの見方になつてゐる。

調査回答企業からは「継続性のある公共事業推進が見られる」との声がある一方で「民間案件の減少を省庁案件でカバーしている」との声があつた。人手に関しては「募集しても応募がなく人手確保が困難」「従業員不足が続き賃金上昇、引っ張り合いの状況」など依然として不足感が強い様子がうかがえる。

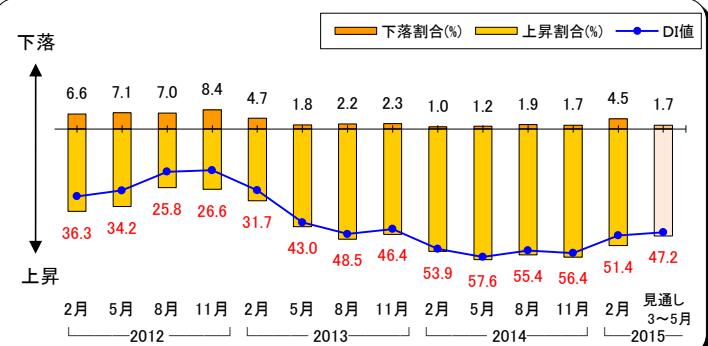
売上推移



採算推移



仕入単価推移



従業員推移



資金繰り推移

